

地名の歴史と由来／「阿佐谷」の地名

幸田有美子(杉並区立郷土博物館分館)

町名の変遷

「阿佐谷」は、昭和40年(1965)の住居表示の施行からの町名です。「阿佐谷」の中央を通る青梅街道および中央線を挟んで、北側は「阿佐谷北」、南側は「阿佐谷南」と住居表示がつけられています。この住居表示は、元の町名が「杉並町 阿佐ヶ谷」であったため採用されたものでした。同所は、更にさかのぼれば、「阿佐ヶ谷村」と呼ばれた村でもあります。この村名の由来は、はっきりしていませんが、村にまつわる史料から、室町期まで遡ることができます。その資料は、当時の武蔵国で勢力をあげていた武士団「江戸氏」の一族を記した文書で、「あさかやとの」の名が記されています。すでにこの頃より、「阿佐ヶ谷村」の辺りがその勢力下におかれていたことがわかる史料です※1。



矢嶋又次画「阿佐ヶ谷天祖神社祭礼」(杉並区立郷土博物館蔵)
絵の下に広がる田圃は、かつて「阿佐谷田圃」と呼ばれていました。この場所は、JR「阿佐ヶ谷」駅南側にある「寿々木園釣堀」(阿佐谷南三丁目38番)にあたります(『文化財シリーズ37 杉並の通称地名』)。

また江戸時代の杉並区域には、20の村があり、そのうちの一つに「阿佐ヶ谷村」がありました。「阿佐ヶ谷村」は、江戸初期には幕府直轄領である天領でしたが、寛永12年(1635)には麴町山王社領(現日枝神社)となり、「徳川家光 朱印状」※2に「阿佐ヶ谷村」の村名をみることができます。

時を経て、明治22年(1889)に行われた町村制の施行によって、この20の村は4か村となり「阿佐ヶ谷村」は、天沼村、馬橋村、高円寺村、田端村、成宗村と統合され「杉並村大字阿佐ヶ谷」となります。さらに、大正13年(1924)6月の町制施行では「杉並町

阿佐ヶ谷」となり、前述の住居表示の施行のとおり現在に至ります。

今も残る通称地名

現在でも、かつての風景を連想させる通称地名は町内で目にすることができます。そのひとつに、阿佐谷北五丁目付近の通称地名であった「お伊勢の森」があります。早稲田通り沿いには、関東バスのバス停「お伊勢の森」(阿佐谷北五丁目)や、「区立お伊勢の森児童公園」(阿佐谷北五丁目35-5)があります。「お伊勢」とは「伊勢神宮」のことを指し、その由来は、この辺り一帯が、伊勢神宮から勧請した「天祖神社」(現「阿佐ヶ谷神明宮」)の旧地であったためでした。鬱蒼とした森の風景は、当時の人々にとって馴染みあるものだったのでしょう。また、この辺りには、昭和22年(1947)より区立「杉森中学校」が設立しており、その校章のデザインは、杉が生い茂るような「お伊勢の森」のイメージが反映されています。当校では校章の由来について「本校の辺り一帯は通称『お伊勢の森』といわれ、杉や松の生い茂る場所」(杉森中学校HPより)であったと解説しています。当時の風景の名残は、このような形で新しい世代である生徒たちに受け継がれています。



上空からみた阿佐ヶ谷駅付近(昭和初期)
(杉並区立郷土博物館蔵)

※1: 応永27年(1420)5月9日付の文書『江戸の惣領の流』として、熊野那智山竜寿院廊下坊の祖師が、江戸氏の惣領を併記したもの。

※2: 「阿佐ヶ谷村に百八十七石余」と記された、寛永12年(1635)6月17日付の「徳川家光 朱印状」(日枝神社蔵)。当社HPより文書のデジタル画像がみられます。

主要参考文献

『すぎなみのまち—住居表示33.54kmのあゆみ—』(昭和44年12月発行・企画 杉並区区民部住居表示課)
『文化財シリーズ37杉並の通称地名』(杉並区立郷土博物館常設展図録)



現在の「阿佐谷」

※当センターの対象地域を示しています。